

第 9 回 ヒューマニティ・コミュニケーション教科担当教員会議 議事録

テーマ: 改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムの開始に当たって

日時: 平成 27 年 3 月 27 日(金) 12:00~13:00

場所: 神戸学院大学 B 号館 2 階 B215(日本薬学会第 134 年会 E 会場)

出席者: 71 名(世話人含む)

配布物: プログラム、出席者名簿、文科省 医療人養成としての薬学教育に係る教材や教育方法の開発に関する調査研究報告書 アンケート(抜粋)(資料 1)、第 2 回教科担当教員中央会議 議事録(抜粋)(資料 2)、ヒューマニティ・アンケート集計結果(資料 3)、昭和大学 ルーブリック評価表(資料 4)

司会: 報告事項(1-4) 小澤孝一郎(広島大)、懇談事項—大嶋耐之(金城学院大)

報告事項:

1. 開会

世話人(小澤孝一郎(広島大))より、会議の趣旨、会議の流れが説明された。

2. 日本薬学会 医療人養成としての薬学教育に関するワークショップ報告(資料 1)

H26 年 11 月 9 日(日)に慶應義塾大学薬学部で開催されたワークショップ「医療人養成のための薬学教育に必要なコミュニケーション教育および心理学・行動科学教育」(主催 日本薬学会)について、参加者として出席した世話人(野呂瀬崇彦(北薬大))より報告された。前半は、改訂コアカリで導入された B 薬学と社会—行動科学教育を含むコミュニケーション教育の現状と問題点についてワールドカフェ形式での情報共有が行われ、後半は、実践へのつながりを意識した関連授業の方略モデル作りを行った。OBE の考えを基本として、複数学年を対象とした連続性のある方略が必要であるというプロダクトが得られたと報告された。(資料 1 p6-7)

3. 日本薬学会「医療人養成としての薬学教育に係る教材や教育方法の開発に関する調査研究」報告(資料 1)

文部科学省からの委託事業として日本薬学会が行っている「医療人養成としての薬学教育に係る教材や教育方法の開発に関する調査研究」について、調査研究委員である世話人(石川さと子(慶應大))より報告された。日本薬学会ホームページで公開された報告書の中から、平成 26 年度に実施されたアンケート集計結果(薬学準備教育ガイドライン・アドバンス教育ガイドラインの実施状況と実施予定、コミュニケーション・行動科学に関連した SBOs の導入状況について、コミュニケーション・行動科学に関連した教育の方略について)の概要が説明された。(資料 1 p1-5) 併せて改訂コアカリに対応した書籍(スタンダード薬学シリーズⅡ)についての情報提供があった。

※報告書公開 URL: 日本薬学会 薬学教育会 (<http://www.pharm.or.jp/kyoiku/>)

4. 教科担当教員中央会議報告(資料 2)

平成 26 年 11 月 17 日に開催された中央会議の趣旨と議事録抜粋について、世話人(石川さと子)より報告された。

5. アンケート結果報告(資料 3)

資料 3 に基づき、本教員会議で継続して行っているアンケートの結果について、世話人(村山恵子(第一薬科大))より説明された。回答は 65 校から得られた。今回のアンケートでは、コアカリ改訂に関する項目を設定したため、各大学のカリキュラムへの影響についても設問を設定した。改訂コアカリに関する科目名は多岐にわたり、さまざまな取り組みがあることや評価方法などの問題点が情報共有されたほか、評価に関するひな形の要望や、研修実施の要望などがあった。この結果については、メーリングリストですべての情報を提供する。

6. ルーブリック評価表の作成について(資料 4)

パフォーマンスや態度を評価するのに、近年ルーブリック評価、ポートフォリオ評価などが導入されてきた経緯、および昭和大学におけるプレゼンテーション、コミュニケーションの評価を目的としたルーブリック評価表の作成と内容について、資料 4 に基づき世話人(木内祐二(昭和大学))より話題提供があった。ルーブリック評価の「悪い」と「最低限」の表現について質問があり、今回提示したルーブリックでは評価「1」のままでは卒業できないこと、評価表作成時に、十分な検討と評価者への周知が必要であることが説明された。

その後、実際にルーブリック評価、ピア評価を取り入れている大学からの情報提供があった。

- ・岡山大学:3 年次薬剤師倫理学においてテーマ毎のルーブリック表を利用している。教員 1 名で作成し、非常に時間がかかった。全ての学生の能力を評価に入れることができない点が問題点である。
- ・帝京大学:他学部との合同講義でルーブリックを利用している。評価対象の学生数が多く、評価する教員によるバラツキがあるように思える点が問題である。
- ・摂南大学:ディプロマポリシーに定められた 8 つの資質を全教員で評価するためのルーブリック作成を開始している。これまでに特別研究用のルーブリックを作成し、各研究室で運用した。大きな偏りはなかったが、全体の評価が集まった時点で全研究室にフィードバックし、偏りを調整する行いも行った。
- ・慶応大学:1 年次生命倫理で行うグループワークにおいて、ピア評価のトライアルを行った。トライアルなので、成績には関係ないことを学生に提示したが、グループワークへの貢献度の評価を均等にする学生が多く、成績評価に用いる際には、もっと検討が必要。改善点に関する自由記述については、次回グループワーク前に各個人にフィードバックした。

今後、本教員会議で、態度評価に関する各大学の取り組みを情報共有できる仕組みを検討中であることが世話人より報告された。

なお、ファーマシューティカル・コミュニケーション学会が 5 月に開催する予定のルーブリック作成ワークショップについての情報が、世話人(野呂瀬)より提供された。

7. 本会議の開催時期、世話人について

アンケートの自由記述欄に検討の要望があったことが報告された。会議の場では意見がなかったため、今後現在の世話人で検討することにした。

8. 閉会

世話人(小澤孝一郎(広島大学))より、ルーブリックの利用上の問題点、FD の必要性、自己評価の利用など、今後の薬学教育に向けての方向性が提示され、閉会となった。

以上

第9回ヒューマニティ・コミュニケーション教科担当教員会議

出席者名簿

2015/3/27(金)12:00~13:00 日本薬学会第135年会 E会場(神戸学院大学)

71名

北海道		
	武隈 洋	北海道大学
	野呂瀬 崇彦	北海道薬科大学
	遠藤 泰	北海道医療大学
東北		
	大橋 綾子	岩手医科大学
	岸川 幸生	東北薬科大学
	中越 元子	いわき明星大学
欠席		青森大学
欠席		東北大学
未回答		奥羽大学
東京		
	井手口 直子	帝京平成大学
	有田 悦子	北里大学
	横田 恵理子	慶應義塾大学
	石川 さと子	慶應義塾大学
	木内 祐二	昭和大学
	町田 昌明	星薬科大学
	井上 みち子	東京薬科大学
	唐澤 健	帝京大学
	岸本 成史	帝京大学
欠席		武蔵野大学
欠席		明治薬科大学
欠席		昭和薬科大学
欠席		東京大学

関東		
	荒井 健介	日本薬科大学
	根岸 和雄	日本薬科大学
	鈴木 勝宏	日本薬科大学
	樋坂 章博	千葉大学
	後藤 恵子	東京理科大学
	亀井 美和子	日本大学
	荒川 基記	日本大学
	小柳 順一	城西国際大学
	生城山 勝巳	千葉科学大学
	土井 信幸	高崎健康福祉大学
欠席		東邦大学
欠席		城西大学
欠席		横浜薬科大学
欠席		国際医療福祉大学
中部		
	宮下 しずか	新潟薬科大学
	久保田 洋子	北陸大学
	尾山 治	北陸大学
	寺町 ひとみ	岐阜薬科大学
	内田 信也	静岡県立大学
	田中 紫美子	静岡県立大学
	鈴木 匡	名古屋市立大学
	半谷 眞七子	名城大学
	仲山 千佳	金城学院大学
	大嶋 耐之	金城学院大学
	西村 嘉洋	鈴鹿医療科学大学
	石崎 純子	金沢大学
欠席		富山大学
欠席		愛知学院大学

関西		
	土屋 友房	立命館大学
	森田 邦彦	同志社女子大学
	宗前 清貞	大阪薬科大学
	小竹 武	近畿大学
	曾根 知道	摂南大学
	廣谷 芳彦	大阪大谷大学
	桂木 聡子	兵庫医療大学
	豊原 朋子	武庫川女子大学
	松家 次朗	神戸薬科大学
	上町 亜希子	神戸学院大学
欠席		京都薬科大学
欠席		姫路獨協大学
欠席		京都大学
欠席		大阪大学
中国		
	名倉 弘哲	岡山大学
	渡辺 雅彦	就実大学
	小澤 孝一郎	広島大学
	松岡 浩史	福山大学
	三宅 勝志	広島国際大学
	向井 良	安田女子大学

四国		
	阿部 真治	徳島大学
	吉岡 三郎	徳島文理大学
	白畑 孝明	徳島文理大学香川薬学部
	難波 弘行	松山大学
九州		
	島添 陸雄	九州大学
	村山 憲子	第一薬科大学
	大光 正雄	第一薬科大学
	壬生 伸子	福岡大学
	神村 英利	福岡大学
	中嶋 幹郎	長崎大学
	立石 正登	長崎国際大学
	中島 憲一郎	長崎国際大学
	入江 徹美	熊本大学
	中嶋弥穂子	崇城大学
	瀬戸口 奈央	九州保健福祉大学